

平成26年度松浪地区防災訓練（平成26年11月16日実施）を
振り返って（報告と意見交換）

平成26年12月11日
松浪地区防災訓練計画
実行委員会 事務局

1 地区防災訓練参加者数及び安否確認数について

（まちぢから協議会対策本部による情報通信訓練）

4か所の避難所で、対象となっている全自治会参加のもと、「避難所開設訓練」と「防災イベント」が実施された。また、全自治会で参加のもと、「安否確認」が実施された。各自治会の参加者数および安否確認数（%）が、各避難所からトランシーバーを、利用して、まちぢから協議会対策本部に集められた。

- ① 全自治会参加者数は、避難所に参加した人数だけでなく、安否確認のために動いた人々も「参加者数」にカウントすべきである。→ 各自治会からの再報告をもとに参加者数を修正する。
- ② 安否確認数の割合を出すならば、4月に登録された世帯数ではなく、訓練日当日の世帯数を使用すべきである。→ 各自治会からの再報告をもとに、割合を修正する。
- ③ トランシーバー受信は、通信場所によって受信状態が悪い場合がある。松浪小学校の場合もアンテナ位置を変えることで状態の改善がみられた。
- ④ MCA無線でも、良好な通信状態にするためには、場所の選択が必要である。
- ⑤ まちぢから協議会対策本部とトランシーバー連絡は必要あるのか。通信に混乱が生じる。→ 地域内の相互情報の収集・伝達にはトランシーバー連絡は有効と考える。

2 各避難所訓練について

① 松浪小学校避難所

ア 避難所運営の構成は、学校職員、市配備職員、地域住民（自治会）であり、三者三様の模様があり、この違いが運営を難しくする局面がある。

イ 一般参加者はお客様気分を受動的であり、皆で取り組む意識が不足している。

ウ 参加者の意見：

- ・小学校長： スムーズな運営。実技訓練は良かった。校長の役割・位置づけがもう一つであった。
- ・教頭先生： 昨年より良かった。指示系統の一本化が必要。情報伝達ルート不確定。
- ・教諭： AEDの説明が熱心でよく理解できた。訓練は継続が大事である。
- ・配備職員の意見： 経験の浅い人がいた。

- ・遠くから来た人もいた。歩いてきたがよい体験になった。小さい子もいて良かった。市民参加型になっていた。
- ・役割分担が明確であった。情報伝達が良かった。反面、訓練方法の調整が不十分。建造物点検に時間がかかった。リアリティ追求が他地域より先進的であった。

自治会からの参加者：

- ・開設連絡する前に参加者が避難してきた。
- ・実技訓練組と講演会組の色け（テープ貼り）は効果的であった。伝達には、ハンドマイクが必要か。避難者カードのフォーマットが自治会により違っており、受付に時間がかかった。情報が三か所に張り出されたことはよかった。
- ・情報伝達には、校内放送の利用も考慮すべきか。中学生の参加（約20名）があった。（校長先生の勧めとか）もっとたくさん参加して欲しかった。
- ・ロケットストーブ使用に時間がかかった。
- ・防災リーダーは平常より訓練を積む必要がある。小学校の防災倉庫の内容の一覧表が必要。
- ・訓練は充実していた。各パート責任者相互の調整が必要か。

② 松浪中学校避難所

ア 自治会参加者の意見：

- ・開設要員の現場である指揮所に避難者が立ち入り、混雑した。誘導の課題が残る。
- ・救急品が古く、更新が必要。
トランシーバー通信が不調（まちぢから協議会本部との連絡がほとんど出来なかった。（本部側では、浪中から女性の声で、明瞭な通信が出来ていた）
- ・要援護者の方の参加もあった。

イ 配備職員からの意見

- ・昨年の反省を生かした結果、特に混乱もなく実施できた。
- ・無線のやりとりがスムーズにできず、やや不安が残った。
- ・まちぢから協議会として無線訓練を実施していたが、災害時に本部はどの様な位置づけとなるのか。
- ・避難者数、周辺の情報などを迅速に共有できるよう各地区の方と連携をとっていきたい。（各地区の情報班は時間ごとに確認してもらうなどの避難所運営本部が収集した情報に優先順位をつけて共有できる方法を

検討したい。

- ・地区自治会主催ならば、市職員はサポート役になった方がよかったかのではないか。また、配備職員がしきるのではなく、防災対策課職員がもっと話を進めてはどうか。

③ 緑が浜小学校避難所

ア 自治会参加者からの意見：

- ・浜須賀地区からの見学者は6名。
- ・マニュアルの検証は確実にできた。
- ・100ℓ水槽からの給水に時間がかかった。非常食の炊飯は、よくかき混ぜることがコツである。

イ 配備職員からの意見：

- ・地域の方がそれぞれの役割を把握し、真剣に、自主的に動かれていた。
- ・施設安全確認から避難所開設宣言までスムーズにできた。
- ・地域の方が、給水設備など資機材を実際に使われて、いざの時に役立つと思う。給水訓練や簡易トイレ組立訓練は幾度となくの研修、実体験が必要。
- ・訓練終了後空き時間が長くなった。訓練内容のシュミレーションが必要。
- ・受付担当が避難者数を世帯数と混乱して、情報班への連絡を明確にできなかった。事前の確認が必要。
- ・班長を当日決めた班もあり、全班で事前に決めて準備する必要があった。
- ・配備職員は、事前打ち合わせが完全でなかった。配備職員は、誰もが資機材の使い方を周知しておかなければならない。
配備職員としてさらに意識の向上に努めたい。
- ・地域の方々が前向きで、動きも、指示も正確でテキパキしていた。
- ・各班長は、責任をもって、皆を誘導できるようにしておく必要がある。

④ 汐見台小学校避難所

ア 自治会参加者からの意見：

- ・訓練工程のマニュアルが必要であったか。
- ・防災倉庫内の資機材の名称をわかりやすく表示しておく必要性がある。
- ・MCA無線の能力アップの必要性がある。
- ・地域連携班は有用に活動できた。
- ・ソーラー発電機は蓄電池が必要である。
- ・お酢消火器のデモは実証的でよかった。

イ 配備職員からの意見：

- ・住民の方々の協力連携を取って、事前の計画に基づき、主体的に行動されていた。

- ・すべての階層の方々が参加されていた。
- ・MCA無線は、体育館内では受信できず、延長コードで場所を移動し、改善した。無線の送受信に手間取ってしまうケースもあった。

⑤ その他

- ア 無線連絡は有用な手段であるので、習熟に努めよう。
- イ 浜須賀地区の無線チャンネルを指導し、混信を回避できるように設定した。
- ウ 非常時は混乱が予想され、非常時組織のあり方を検討する必要がある。
- エ 要援護者の避難を視野に入れた訓練も必要である。
- オ 4拠点で、それぞれの参加自治会の手で、訓練内容が企画・計画され、訓練が実施できた。地区の防災力の向上が実証された と思う。